

# 岩手県総合計画審議会 第4回「ゆたかさ」検討部会発言等要旨

日時：平成25年8月8日（木）13：00～15：00

場所：岩手県庁 8階 8-E会議室

## 1 出席者

別紙、出席者名簿のとおり。（「ゆたかさ」検討部会委員8人）

なお、県民の方、報道関係者の傍聴はなし。

## 2 内容

### (1)「各委員のお考えについて」について

資料1に関連して、資料に記載されていない内容を中心に各委員から説明。

◇各委員発言

#### ●吉田委員

いくつかの収入の手段、複収入というのかこの視点は大事である。また、エネルギーの作り方や消費の仕方については、もっと議論があってもよい。

#### ●柁屋委員

1ページ目のところで、生産拡大という視点の部分を提案させていただいた。とくに観光産業の部分、県でも波及効果が大きいと言うことで取り組んでいただいているが、私どものような被災地でも、一旦、がくっと減り、最近はNHKのドラマ「あまちゃん」の効果で上向いてきたことを経験すると、観光産業の所得が増えていく効果は高いなと実感している。交流も合わせて考えれば、総合的な豊かさの満足度があがってくるものだと考える。

それから、4ページの漁業の再生というところで、気候変動に対する対応を早くから行っていくという視点で書いたが、鮭について、県の鮭の回帰率が1%台となり、沿岸地域はその分の所得が下がっているということで、国と県が一緒に取り組んでいかなければならないと思う。

農業分野でも、20年30年経つと気候変動により、今、福島とか山形とかで生産されている美味しい果物が、岩手県でも取れるようになるのではないかと。

#### ●山田座長

ありがとうございます。将来的展望も含めてですね。では藤井委員さん。

#### ●藤井委員

全体を通じて改めて思うのは、所得を、具体的に数字を入れて250万を80万にするとか、

そんな数字が出ていたかと思う。全体から読み取れるのは、所得の向上という見かけにと  
らわれないものが出てくるのではないかと思う。身の丈にあった起業、少量多品目、そう  
いうキーワード、みなさんの意見から見て取れる大きな特徴かなと思う。

書き忘れた点は、そういった中で、消費者を意識した生産、農業にしても水産にしても、  
工業のものづくりにしても、少量多品目でどういうものを作っていくかニーズをきっちり  
把握しながら展開していく、そういった実力が求められるため、具体的に展開する上で大  
事なのではないかと思う。観光のリピーターを増やすなど、何を求めて来ているのかニー  
ズを見極めてそれに対応するという事だと思ふ。

私も具体的なイメージが湧いてこないのは、これからの時代に必要とされる力、基礎学  
力、人間的な力をどこで養成していくのか。高等教育機関の中で育てられるものなのか、  
求められるのはわかるが、大学だけでは荷が重いというか、社会全体の中で担うものなの  
ではないかと、もどかしく感じている。

#### ●山田座長

ありがとうございました。

おそらくその所得向上、数年前と違う視点というのは、先ほど吉田委員もおっしゃって  
いたことと重なり、後半をどうまとめていくかにも関わっていくところだと思う。基礎力  
のところは私もなんとも厳しいと思う。では千田委員さん。

#### ●千田委員

メールでこれをいただいて、時間をかけて意見を考えたが、テーマや分野に絞り込む定  
義づけが難しい。これだと思って書いていても、じつは違うところにも関わってくるの  
ではないかというものがあって、アメーバ式と言いますか、例えば製造業でも、一社の中小  
企業でできないことを何社かコラボしてやろうというのがあるが、政策もそうで、これと  
いう分野でなくて横串を入れて、色々な視点から、色々なイベントなりをやっていくとい  
うのも発展があつておもしろいのではと思う。

付け足しという点では、7ページの若者の地元定着率のところ、街コンや、全国ネット  
でやっているようなイベント、テレビ番組、メディアをうまく使うのもいい。フジロック  
のような大きいイベントを引っ張ってくるとか、岩手でどンドンイベントを盛り上げると  
か。

おもしろいと思ったのは、渋谷の 109 を釜石に持ってくるという話。中学生が手紙を出  
したら 109 が動いて、釜石に 109 ができるというのが話題になったが、そういうことが中  
学生の手紙から始まったのがいいと思う。そういう面白みのある発想が県でもあつてもい  
いかなと思うし、今日のような民間の人たちの意見を聞くとまた違う視点から見るこ  
とができるので、私も含めて意見が言えればいいかと思ひ、紹介させていただいた。

●山田座長

ありがとうございます。

アメーバ式というところで、提案できるところにもっていけると、こういう考え方もあるのだということで、違う発想も出てくると思う。千田委員さんのところで私も拝見して、一度来てもらう仕掛けにもつながるのかと思う。新しい発想というところについては、ぜひ皆さんの意見を伺いたい。

●谷藤委員

私の場合、書き損なった部分はあまりなく、むしろすべて書いた。私としては、発想は一貫していて、これから普通の仕事がなくなることについてどう対応していけばいいのかが唯一の柱である。なぜかという、私には高校生と中学生の二人子供がおり、これからおそらく子どもが大学に入ったとして、どういう勉強をすれば就職の時にうまく対応できるのかと考えるようになったことが大前提にある。普通の仕事がなくなっていくというのは前から薄々と感じていたことで、例えば特に製造業だと出荷額と付加価値額はどんどん増えるが、従業者数はどんどん減っている。結局色々な仕事人が人から機械に変わってくる。要するにブルーカラーの人たちの仕事もどんどんなくなっていくというのがこれまでの形としてあったが、最近ホワイトカラーの仕事もどんどんなくなっていく方向にある。

能力の正規分布を考えると、ものすごく能力のある人と、だれでもできるような仕事の両極端しか残らなくなってしまう。その中で、製造業で出てきたのは、端的に誰でもできる部分の仕事はもはや日本ではできないということだった。岩手県の場合は典型的に、平成13年ごろからアイワ、アルプス電気が撤退する動きがあった。あれは結局中国との競争に負けたということだ。人件費格差をこちらでこなしきれなかった。その状況が中国ですらなくなって、バングラデシュなどまでいっているわけで、いずれにしても誰でもできるような仕事はもう日本ではできない。そういう意味では大量生産型のものづくりが仮に日本に残るとしても、働くのは人ではなくロボットになると思われる。そういう状況が一般のオフィスにも出てくる。そうなれば、今まで私たちが受けてきたような教育では、たぶん私の子どもたちはいきていけないだろうというのが、私の問題意識の根底である。切実な問題であり、非常に大学に期待している。

どう考えていったらいいのか、私自身見えていない。だが、私たちが受けてきた教育、普通に勉強し、就職してそこそこの給料がもらえて、そこそこの生活ができるという幸せな時代はほとんど終わった。そこをどうするかいち早く対応できれば、岩手県の未来は明るいと思う。その誰も答えの分からない部分を、みなさん一緒に考えましょうというスタンスである。

ちなみに今私が申し上げた問題は本になっていて、1ページ目で2冊の本を紹介している。「機械との競争」は春先に日経BPから出ていて、アメリカのMITの学者が書いている。ちなみに先週の東洋経済に、夏休みにおすすめの経済書ベスト20の第3位に入っていた。

それから「コンピュータが仕事を奪う」という、国立情報学研究所の、一橋大学を出て数学者になった新井紀子さんの本も、2010年ごろ出ている。これらの本からしても、いずれにしても普通の仕事はなくなる。作中には私の漠然とした不安がある程度形として示されている。是非読んでいただきたい。

国漢英数、読み書きそろばんの現代版が何かということを考えなければならない。

それから人間が介在する仕事について、唯一書き足りなかったのは一次産業。一次産業こそ人のノウハウがいきるのではないか。その延長でいうと、岩手県が食料の自給自足は可能であるというが、その根拠になるのは農林水産省の出した数字、カロリー自給率だと思うが、以前から気になるところがある。例えば秋田県のように米が主力で、ほとんどのカロリーを耕種農業で稼ぎ出していれば、秋田の大地が生んだカロリーだと言える。それが秋田の県民が消費しているカロリーを上回るから自給率100%超だと言える。岩手県に置き換えて同じように言えるかという、算出されているカロリーのかなりの部分を畜産が占める。具体的な内訳は農水省も出していないと思うが、岩手県は生産額ベースで半分は畜産である。畜産が生み出すカロリーは岩手の大地が生み出したカロリーではない。移輸入した飼料のカロリーを変換しているだけで新たに生み出しているわけではない。そこを見ないと岩手の実力を私たち自身が勘違いする。数字は農水省が出すからうそはないと思うが、解釈の問題である。私たちは地元の間人だからこそ控えめに見ておく必要がある。もちろん畜産はそこにうまく付加価値をつけて、新しい産物を作っており非常にすばらしい経済活動だ。ただカロリーとなるとそこは違うのではないかと思う。

#### ●山田座長

ありがとうございます。

私もカロリーというところが気になっていた。

#### ●谷藤委員

対外的に言う時は言っていると思う。数字を出すのは農水省であるし、私たちが自分で言っているわけではない。ただ私たちが岩手の一次産業の実力を考える時には、一応頭に入れておいてほしい。少なくともカロリーに関しては変換しているだけだ。もちろん付加価値も上乘せしてちゃんと売っているから、そこは立派な経済活動である。しかし理解の仕方は注意が必要だと思う。

#### ●山田座長

ありがとうございます。

発想をどう転換するかが分かれ目のところにきているのかもしれない、転換がどうできるかがゆたかさとリンクしてくるかと思う。打ち出す時に難しいところもある。

それでは菅原委員さん。

## ●菅原委員

私は以前病院で長く働き、忙しい毎日の業務でした。NPOの業務も別な意味で忙しいが、NPOで活動していると、グローバルな行動なのに頭の中がアナログになってくる。視野は広いが考え方が古臭くなる。何かの役に立たないと満足しないという、よろしくない性格になったなど感じる。

物事が全てグローバル化するのにはもはややむを得ない。ただ、そのときに、例えばまちづくりについて話すときに、一部、まちづくり＝自分の地元だけよければいい、それが成功だと考える方がいる。それはグローバルな広がり逆ではないかと思う。グローバル化というのは、多様なものの考え方を受け入れていく時代になっているということであり、教育も自分だけいい学校へ行こう、いいところへ就職しようという自己中心的な考えではなく、多様な考え選択肢があってOKという考えになるとよい。

世界を考えた時にも、多様な価値観・習慣で生きる人々の中でビジネスを展開していくときに、受け入れをどうするか、人間として基本的なものの考え方の教育も必要だと思う。受け入れるのに一番大切なのは、机の上で勉強することはもちろん不可欠であり、更に実際に接触することなのではないか。障がいのある人、海外の人、それも若いうちから接することが大切だと思う。

今は高校生くらいから海外ステイをすることもあるようで、それほど自由度が高いわけではないが、それでも日本とは違うものの考え方に接触する機会はずっと多くあった方がよいと思う。

先日、地元のNPOで中国の長春大学の大学生・大学院生をホームステイさせているところがあり、たまたま私たちが運営している市民活動センターを使い、歓迎会を行った。シンプルで素敵な歓迎会だった。私たちも何か協力したいと思い、七夕飾りを作り、もともと中国から伝わったものがこうなっているとか、お願い事を書く風習があることなどを伝え、短冊を書いてもらった。生徒は日本語を書くのも話すのも上手で、日中仲良くしようなどということを書いていて感動した。総理大臣がなんでもいいですよと受け入れてしまうわけにはいかないし、利害関係があるためどうしてもこのところ日中関係があまり良くないが、しかしステイする6人のうち4人が日中友好と書く様子を見て、民間が担っていく部分もあるのだと感じた。逆の立場で、日本の大学生であればほど流暢に中国語を読み書きができる人がいるのかなと考えた時に、中国の教育の違いやすごみを感じた。今後の教育を考えていくことは大切なテーマだと感じた。

## ●山田座長

ありがとうございます。

民間の方々には地道な力を発揮されているし、やはりゆたかな部分だと思う。そこをいっそう把握したい。より一層伸びていただきたい。他にも随時ご発言いただきたい。

●鎌田委員

前回 100 年、200 年後という話が出たが、全然考えが及ばない。豊かにするにはいろいろなものが必要だが、逆に揃えすぎてもどうか、自分たちで作っていくもの、勝ち取るものも必要であるように思う。

千田委員さんが街コンやロックフェスの話をしたが、実際に私たちが 5 年前に沿岸でロックフェスをしたし、沿岸でも街コンをやりはじめている。企業支援、経営支援、独立支援だけでなくそういうものに手助けをしてもらえれば、本当の豊かさにつながると思う。

農業や水産業は作る人が高齢化しているの、若い人がどんどん参入すればゆとりある生活になると思うが、なかなか壁があるので、なんとか作り上げていきたい。作る人がいなくなれば産地もなくなるので、ある程度数量がないと買う側も選びようがないので動かない。きついイメージはあるかもしれないが、なんとか漁師の後継者をふやしたい。岩手だけの問題でなく、根室にも行ったが、息子が漁業をやるとなれば漁船の引継ぎにもなるが、息子がやらないとなればそれで終わる。会社もそうだが、自分の代で終わりなら設備投資も何もしない。誰かに引き継ぐとして設備投資すれば引継ぎができる。そうして引き継ぐ為に、お金だけでなくポイントをうまく使って良くしていくのはどうか。自分たちとしても、国内の水産物をどう食べてもらうか話している。例えば水産物を食べたらポイントがつくとか、値引きではなく、最近日本人が好きなポイントをつけてはどうか。最近日本人は魚を全然食べないし調理しないので。

●山田座長

ありがとうございます。

後継者育成というのは重要な視点の一つ。

●鎌田委員

お金などの問題でなければ、周りが後をついでいくと思う。

●吉田委員

後継者は、親子でなければいけないか。

●鎌田委員

親子でなければいけないということもないが、漁業権の問題などがある。農業については分からない。

●山田座長

後継者育成について、就業、職、産業、教育のところと考えがリンクした。今の時代に

どういう能力が必要かという点にいろいろなところ関わってくる話だと、あらためて感じている。一次産業という点では先ほど鎌田委員さんからお話がありましたし、今後も議論したいと思う。

現時点では自分のところで付け足したいところはないが、千田委員さんの言われていたように、どこの分野にも属さず横断的に考えるという発想はある程度共通しているのではないかと思う。印象として、少子化現象とともに、高齢者の方にどういうふう生き生きとした生活や全体の今後のゆたかさを感じていただけるかを考えた時に、前提となるこれからの趨勢としては、生産年齢人口が変わってくるということがあるだろう。この点も含めて考えていかなければならないと、全体背景として今回あらためて思った。

もうひとつは、複数の収入や「身の丈」といったところの、無理やり何かを伸ばしていくというところではない着実な生活、というところに皆さんの視点がきているということが見えてくるのではないか。お尋ねしたいこともあるが、意見交換のときに発言させていただきたい。

一巡して、新たな視点を得られてありがたいと思う。ここからは、意見交換ということで新たに時間をとらせていただきたい。

#### ◇意見交換

##### ●山田座長

では私から。

鎌田委員さん、1 ページ目の、プラスワンというところ。これからの将来において重要な産業を構築・推進するうえでプラスワン、というのはどういう発想か。

##### ●鎌田委員

抽象的だが、単純に、これでいいやではなく、ほかにもないかということ。十分すぎるということはないので。

##### ●山田座長

各分野で、もう一步踏み出すという意味でプラスワンだと。まさに考え方だと。ありがとうございます。その通りだと思う。産業に限らず。

分野の中で岩手県民の意識向上だとまとめていただいている。ここはかなり広く捉えていると思う。他に何かあれば。

##### ●藤井委員

次世代を担う後継者について、鎌田委員は、課題の中で船を改装するというのは、跡取りがいればとおっしゃっていましたが。

●鎌田委員

跡取りがいる人は、最近船を新しく作っている。大船渡でも北海道でもそうだが、やはり船を作るとなると何億とかかる。設備投資もそうだし、漁船漁業もそうだ。そうするとやはり跡取りがいないとできない。大船渡もそうだが、息子が違う仕事をしていて、結果的に親と同じ漁船漁業をやるから船を新しくしようという決意をする。そして新しく作ったものに関しては後継者ができる。北海道でもほとんど船が古くて、息子や跡取りはいるが、今の状況では船を新しくしても将来がない。もう少しよくなれば、息子と一緒に乗れば跡取りができるという話だった。また、養殖漁業については全く違う。

●藤井委員

農業に比べると、二桁くらい、そういう点では設備投資が必要と思う。千田委員さんのところみたいに、ものづくり系に近い。

●鎌田委員

ただ、養殖漁業の場合は漁業資材はかかるが、そこまでお金はかからない。漁船漁業と養殖漁業は本当は違うので。ただ養殖漁業は高齢化が進んで、跡取りがなかなかいない。極端な話、定年になって 60 から漁業を始めようといっても無理だ。40 からでも遅いのではないかと言われる。そうすると養殖漁業も、ホタテにしてもカキにしてもワカメにしても、受け継がれなくなってしまう。

●藤井委員

岩大にしても、水産はないが、東京海洋大と共同で何か教育プログラムを組み立てようかと。うちはゼロだが海洋大はメニューという点では 100 あるし、スタッフも 100 人以上いるし、大学院人材などというのは漁業の最先端に不要だろう。釜石にサテライトキャンパスを設けたが、狙いとしてはどのようなところなのかなど。水産高校で十分なのではとか。

●鎌田委員

そんなことはないと思う。自分たちも北里大学があったが、養殖するうえでの生物分析、みたいなものだったので、自分たち水産加工とはリンクしなかったが、そうではなくて、漁業に関心を持って跡をとってもらおうとか、跡取りじゃなくても、市内だったら誰でも漁業やるかというようになればいいと思った。

●藤井委員

谷藤委員の、普通の仕事がなくなるという問題提起は確かに 10 年 20 年先を考えると恐ろしい感じがする。医師、弁護士、会計士などの専門職業人はわりと鮮明だが、これから



必要とされることが予想されるエキスパートについて、これからどのような能力が必要とされるかは大学としても本当に難しい課題である。

●鎌田委員

漁業についてはセンスもあるだろうが、やる気とか。まあそれが仕事だと思えば。

●藤井委員

就職先がはっきりしているのは例えば資格がはっきりしている医学部とか法学部とか。岩大で言えば獣医ははっきりしているがその他大勢はどういうところにターゲットを置けばいいのかと。

そのなかで就職動向としては、「とりあえず公務員」。

●谷藤委員

その中の関連でいうと、1ページ目の2つ目のところにまとめていただいているが、人間に残る仕事とは何かと考えたときに、確実に残るのは経営者の仕事だ。会社の数を増やすとか、自ら経営者になるという方向性はいいと思う。要するに雇われようと思うから限界がある。自分で商売を始めればいい。自分で商売するという選択肢として農業や漁業が入ってきてもいいと思う。農業や漁業はひとりひとりが経営者だから、それなりにノウハウは必要だし、年取ってからはなかなか難しいが、だからこそ逆に若い人が早いうちからこういう世界で経営者としてやっていければ、それはそれで十分やっていける。人手が、まさに担い手がいなくて言われているところだが、それだけに可能性も大きい。

●山田座長

例えば県内でも若い酪農の方が色々な製品を出している。若い方たちが色々な発想でやることができる、つまり自営というか、こういうこともできるんだということをより早い段階で東になって見えてくると、外からあるいは中から入ってきても、全く不可能ではないということが入りやすくなるのではないか。

人材育成というのはいくつか段階が考えられるだろう。もちろん大学卒というのもひとつだが、吉田委員さんが書いている高卒人材の実践教育、千田委員さんが書いている小中学生のものづくり体験、また両方へのアプローチなど、発想の転換ができれば。吉田委員さん、なにかあれば。

●吉田委員

そもそも普通の仕事という概念は近代の産物で、そういう考えは江戸時代にはなかったもので、ちゃんと遊びに行くぐらいのお金を得るには職人になるしかなかった。やはりそういった技術者をたくさん育てていくことが豊かさに繋がるのかなと考えている。

職人はカッコいい、そういうふうにかどもたちが憧れられるようなものづくりのプロを育て、切磋琢磨できるような環境にしていく、お互いに議論して新しいものを作る人材の拠点になるようなものを作ってほしい。

#### ●山田座長

今は色々なルートがありうる、つまりある種のルートが決まっていた時代ではないというところで、じゃあ今度はどう多様な中を生きていくかということが、岩手は示せる、またその筋が十分あると思っている。川俣委員さんの伝統産業への支援というのがあって、いわば豊かな人生、送る選択肢の多さを提示できるのではないかと思う。

ちなみに不勉強で恐縮ですが、クラウドファンディングというのは。

#### ●谷藤委員

今、ITの世界でクラウドという言葉には2つ意味があって、1つは雲 (cloud)、もう1つクラウドファンディングのクラウドは群集 (crowd) という意味である。小口の資金を大勢の人から集めていってファンドを作ろうという発想である。昨日いわて未来づくり機構の架け橋産業部会に行ったら、クラウドファンディングのシステムを提供する民間団体の話が出るなど、岩手県でも結構事例は出てきている。特に岩手県の沿岸復興支援の関係が出てきているようだ。

ただ、私は根っこがそちらのほうの仕事をしてきたからだが、法律的に大丈夫なのか、実は結構グレーゾーンがあると感じる。調査研究の要ありと書いたのはそのへんもあって、大々的に始めて大丈夫なのかというところは少しある。今グレーゾーンなので、法整備してからやったほうがいいのか、それとも既成事実を作ってそれに合わせて法律を作って進めたほうがいいのか、ちょっとわからない。いずれ、このやり方は資金を集めようと思ったときに、例えば今銀行に行っても、普通は担保もない、事業計画の将来性もよくわからんというのでは金を貸してもらえない。あとはベンチャーキャピタルはどうかとなると、将来上場する予定があるんですかと聞かれる。そこまでは考えていないとなると、もう資金調達の道がない。友達や親戚からかき集めるしかない。

そこで、いっぱいお金を集めたいが、まとめて調達することが難しい時に、私こういう事業計画やプラン考えていますとインターネットでオープンにして、それを見ておもしろいねという人が、私〇〇円出しましょうというのが積み重なって、一定の金額になって、という感じである。例えば一人当たり5000円とか3000円とか、仮に3000円でも1000人から集めれば3百万になる。お金出した人のメリットは何かというと、そこがまたいろいろあるらしく、出資なら普通は配当という形だが、そこまででもなく、例えば、こういう新しい製品を作ろうと思っているのでお金を募りたい、というパターンであれば、製品開発に成功した暁には優先的にタダないしディスカウントして提供、など、そういう形でやっているケースがある。いずれにしても、なにか事業を始めるにはお金が必要。自己資

金があれば問題ないが、そういうケースは少なく、通常の組織的なところから借りようとするれば難しいというときに、おもしろいねというノリでお金出してくれる人、金額は小さいが数でこなそうという世界である。そういう意味でクラウド、群集のファンディングということである。

●山田座長

インターネットで投資してというのがクラウドファンディングだということで、(報道等で拝見してきた事例と)つながった。起業という意味で言えば一つの可能性ではあるけれども、ただ、ひょっとしたら慎重になる部分もあるかもしれないという。

●谷藤委員

現実になんかやっている事業者もある。今のところ問題があるという話は聞いていない。ただ始まって間もないということもあり、大丈夫なのかもしれないが、本当に大丈夫なのかなという気はする。

●山田座長

ありがとうございます。

ひとつのきっかけになりうるのではないかと思います。期待する部分もある。

それでは後半に移ります。次第の2番、事務局にご準備いただいた骨子のところです。

(2) 『「ゆたかさ」検討部会の提言骨子(素案)』について

資料2に基づき、事務局から内容を説明

◇各委員発言

●吉田委員

最初に、目標みたいなものを入れてはどうか。理念と言うかこういう県を目指すということで、具体的な方針などが見えてくる。

●山田座長

先ほど理念と言うこともありましたが、その辺について。私も重要な点かと思えます。豊かさというのは今まで特に定義を意識せずに、自由に発想したいということでやってきましたが、最終的に検討部会として出すときに我々は岩手県の豊かさはどう考えるかといったところについては、理念が必要になってくるかなと。今日その点も1つの焦点になると思えます。結構色んなキーワードを出して頂いてよろしいと思えます。

豊かさというのはやはり似田貝先生から御講演をちょうだいしたというのももちろんございますが、考えるきっかけとしていくつかインターネットで引けるところで集めて参り

ました。豊かさを経済指標だけではなくてどう測っていくかという流れの中で、いくつかの研究機関さんでおまとめになっているところです。最初はGNH国民総幸福度ではかる日本の豊かさというブータンの、皆様御存知だとは思いますがそれをかなり念頭に置いてらっしゃる。その次の1枚が豊かさ新指標ということで豊かさのどういう側面を持つものかという構成要素。最後は兵庫県立大学の研究所さんの御様子ですけども合同研究会のような感じらしい。真の進歩指標という形でお話になっていた。それぞれの前提等おありかと思いますが、ざっと拝見した限りでは、量的に考えていくという方向かなと思います。こうした考え方もありますし、同時にこの検討部会においては量的な指標だけではないというところを見ていくということでもあるかと。先ほど吉田委員さんもおっしゃっていただきました、目標あるいは理念といったところで、豊かさというところで言ったときに、例えば精神の豊かさとか心の豊かさといった言い方があるかと思いますが、経済的な豊かさでは「ない」といった残余カテゴリーではない言い方が、さらに「岩手ならではの」ものが出るのであれば、1つの御提示としてありえるかと思えます。

どういうキーワードがいいかなというのが難しく考えていましたが、こちらの資料につきましてはお帰りいただいてから御覧いただくということで。こちらを御覧になってこういう考え方も1つある、といった時はおっしゃっていただければと。後は先ほどの御提案の「豊かさ」について、どういうふうにお考えか、また総じてみるとやはり少なくともこれだけは言っておきたいという。本当に委員の皆様個人の個人的なお考えで結構です。

#### ●吉田委員

女性の就業率高めるということでは男性は家に帰らなければならない。そういうことを考えるとブータンの指標にも出てきますけれども、時間の使い方というのが非常に大切になりますので、そういった日本人の就業観を変える。例えば『5時に家に帰ろう運動』ですとか『5時に帰れる岩手県』ですとか、そういうふうにしてもらえると分かりやすいかなと思います。

#### ●山田座長

5時に帰れる岩手県。明確に打ち出せるという意味ですごく良いと思います。

#### ●吉田委員

恐らくそれは北欧のように教育にも関わってくると思います。心の教育として。

#### ●藤井委員

秋田の小学生の学力テストが全国最高レベルですね。岩手県の小学校の先生は気にしていますが。日本海側は三世代暮らしているという少子高齢化が強みになって早寝早起き朝ごはんというサイクルで、1時間くらい生活の時間が早いというのが小学校の生活を支え

ているんだと、学ぶ姿勢がそこから生まれているんだと、おじいちゃんおばあちゃんから学んでいうその世代の繋がりや強みが出ていますけど。(1)(2)(3)とありますよね、2番目にあるように最低限の県民誰もが年齢に住む場所に関わらず最低限のことが保障されているのが第一の条件で、次にお金ではない豊かさワークライフバランス、生活と仕事とのバランス。食べるために働いているのではなくて、生活を豊かにするために働くということを発揮するような社会を作っていくと。それで多様な豊かさを維持していく。(1)(2)(3)のタイトルを上手くひとまとめにするのは体現的には色々あると思う。ここで出し合っても難しいと思う。宿題にして一行だけでも良いと思うので、吉田委員が言ったように5時に帰れる岩手県のようなキャッチフレーズを。

#### ●事務局

事務局からちょっとよろしいですか。今藤井委員がおっしゃったように、ここでカチッと今決めようというわけにはいかないと思っていて、こういうフリートークのようなアイデアを色々出して頂いて、色々なパターンを作っていきたいと思っていて、それをメールなりでお返しして確認して頂いて、少しやり取りをしないと形にはなっていないかなと思いますので、どういう形が良いかというよりはどんどん思いの丈をおっしゃっていただきたい。例えば、先ほどのイベントの件では、イベントをやると地域が元気になるよと、ただそれには問題があって財政出動が多くて、例えばロス五輪なんかは税金なんかはお金かけないで派手なことが出来たというようなこともありました。あれは地域力、もちろんロスの場合は国際的企業の力、スポンサーのおかげですけど、そんな形で盛り上げて行こうと。要は狙いは地域が活性化すると何かお金が使いやすいと。また、観光面では、桎屋委員のように交流人口に繋がって色んな観光の場面が生まれるという。まさにあまちゃんではないですけど、昨日まではろくに気付かなかった所がいきなり聖地になったりして、各地に色んな聖地があってそれは意図的に作るんじゃなくて、色々な晒し方をすると勝手に気付いてもらって価値を付けてもらえるというメリットもあるんですけど、これは各論で今の話には直接つながらないかもしれないですけど、そういうアイデアをどんどん出して頂いて、それを後でまたみんなで集まって少しずつ形にしていくということの良いのかなと思っております。

#### ●山田座長

ありがとうございます。思いの丈を。千田委員さん。

#### ●千田委員

先ほど吉田委員がおっしゃった「5時に帰ろう岩手県」というのは私はすごく良いと思う。私は、製造業の取締役を務めていて、私自身が社長になって自分の会社をどういう風にしたかとなった時に、社員に幸せになってほしいというのがあって、幸せとは社員がどう

いう状態が幸せかと考えたら、やっぱりきちんとお給料払えるとかボーナスを多く払えるというのと、定時で帰らせたいっていうのがあったのですね。じゃあどうしたら良いかという技術力を上げて付加価値の高い製品を短時間で作るしかない。そういう会社を目指したいなと思っていました。何で定時に帰ってもらいたいかというと、会社の利益だけを考えると残業を減らすのはそれとしても、家庭を大事にてもらいたい。子どもとの時間、奥さんとの時間、自分の趣味の時間とかそういうのを大事にてもらいたいし、そういう社員であってほしいなと。

例えば親御さんとの時間だったりとか友達との時間だったりとかをすごく考えています。経済じゃない部分の豊かさというのはすごく難しいのですが、私の立場から言うと(1)の部分に重きを置いてしまう。そこが話しやすいのでお話しさせていただいて、まだちょっと違うお話になりますけれども、6月か7月くらいに経済同友会の全国大会が岩手県であって、ジョン・V・ルース大使がおっしゃった言葉がすごく印象的で、日本の経済の再生には3つのキーワードが必要だと。女性の社会進出の力をもっと活用した方が良いというのと、若者のグローバル化というところと、起業にチャレンジするということの3つをおっしゃっていてすごく共感を覚えたのですが、それが結構各委員さんからの意見の中に散りばめられていたのじゃないかと思えます。こと経済という視点で見るとそういった部分も納得できる部分ではありましたが御紹介させていただきました。

やる気スイッチを入れるというのは大事だと思っていて、例えばさっきの融資とかの話ではないですけども、起業しようという時とか経営しようという時にお金ってどうしても必要で、決算書も普通の学生とかは読めないのが当たり前だと思うんですけども、そういった中で例えば借入したい時に経営計画を銀行に出すのも大変で、暗闇の中に居るから何をしたいのか分からない、何をしたら良いのか自体が分からないという状態が例えば企業者だったりとか、跡取りの人だったりとかがある中で、県が企業家支援の塾とか、女性向けだったりとかそういった何か背中を押す、スイッチを入れてあげるという施策があったらやりやすいと思っています。

#### ●山田座長

背中を押す県。

#### ●千田委員

全国一起業がしやすい県とか。ドンドンダウンの方は岩手出身じゃないんですけど、自分が起業しようと思った時に色々マーケティングして盛岡の地域というのが起業の条件に1番適していると思ってわざわざ岩手に来たというようなお話を講演で伺って、そういうのもあるのかなと思ったのですが、3ページの真ん中に私意見出させていただいたんですけども、岩手県に居る方でも良いですが、例えばUターンとかIターンで、それこそ東京じゃなくても海外でも良いんですけど、そういった所で色々な経験を積んだ方とかが岩手に

来て起業っていうのも良いのかなと。元々岩手に居る学生さんとかを支援しても良いのかもしれないけど、こういった観点での起業支援っていうのも面白いかなと。

●山田座長

ありがとうございます。非常に重要な点で私も千田委員さんがお書きになったところが気になっていました。岩手に帰ってきたいのだけれどもそこが見つからない、そこさえ見つかればというのは聞きますね。

●谷藤委員

提言案の骨子について事務局にお願いがあります。県民所得の状況の分析で、ぜひ分配分の分析を手厚くお願いしたい。一人当たり県民所得ということで従来から数字が出てそれを目標に掲げられてるわけなんですけど、一人当たり県民所得というのはマクロ的な数字でしばしばその意味が誤解されるわけです。要するに一人当たりの懐に入るお金とっている人の方が圧倒的に多い。でもそれは県民経済計算で言うと分配面の話になってくるので、ここを分厚く時系列的に分析してみてください。

企業さんの分の取り分が減っているのじゃないかなという漠然とした思いがあって、数字を出している大元のところできちんと分析していただくと良いのかなと思います。もちろん SNA（国民経済計算）が変わっているのどこまで遡れるのかという話があるのかもしれないんですが、可能な範囲で結構なので出来るだけ長期間にわたってどういう風に変化してきたのか、それと例えば県の施策等もお願いしたい。それから収入に関するデータもあればそれも併せて出していただきたい。

●事務局

今おっしゃったように基準がちょっと最近変わりました追っかけを工夫しないと取れない所もありますが今段階でコメント出来ることあれば。

●事務局

17年基準に変わった関係で、平成13年度までしか遡れないというのが1つございます。

それと県民所得のうち企業の取り分が減ってきているのではないかというお話しは、傾向としては確かに景気が悪くなるとどうしても職員に払う分は減らさないというのがありますので、企業の取り分が全体として減少しているという傾向はあるようです。ただ、今平成22年までのデータしかないの最近の状況は分かりません。

●谷藤委員

いずれ、流れとしてどうなっているのか見たいので。

●事務局

そこは整理して提供させていただきます。

●谷藤委員

ぜひ提言の前段の分析のところにその結果を入れることをお願いします。連動して、提言、具体的な方策に繋がると思うのでよろしくお願いします。

●山田座長

ありがとうございます。農業の場合ですが、後継者の方がいらっしゃるところを拝見していると、御家族が生き生きとやっていらっしゃるところは、その背中を見て継いでいかれているなと思うことがあります。

●榎屋委員

骨子の素案に、歴史文化・伝統なども入っていますし、健康や命も入っている。全体にかかる部分で人材育成の表現をどこかで強めていただければ。

それから県民所得の状況のところでは実際の生活者が今よりどれくらい収入が多ければ良いと思っているのかなど。少ないよりは多い方がいいわけですが、実際、漁業者がいくらなのか、サラリーマンはいくらなのか、あるいは30代の子育て世代はいくらなのかなど、そういうところのデータが欲しい。例えばそれに合った課題の解決策等々が見えるのでそういうものも皆で共有したらいいかなと思います。

それから前に戻りますけれども一次産業の件で就業者が高齢化しているが故に担い手の確保育成という部分を強めているわけです。一方で高齢者がもっと長く頑張れる工夫が出来ないかなど。例えばしいたけ栽培はほだ木が重すぎて、70歳過ぎれば無理だということを産学官で研究して軽い素材を開発して85歳になってもしいたけを栽培するようになれば、一次産業の離れ方の傾きを止められるので、担い手で入って来た方も自信を持って、希望を持ってできると感じられます。

●山田座長

ありがとうございます。先ほど千田委員さんがおっしゃっていたこととも繋がるのではないかなと伺っておりました。よろしければ一言ずつ。

●藤井委員

今もらった意見からすると、3番の具体的な取組の提言というところに横串に刺すような取組を事例紹介するというのでいいのですね。さっきからあったのですが、起業とか事業承継のスイッチを入れるとかいうのは県のサポート態勢とか、的を絞った人材育成だとか、よく話題にでたイベントですか、老若男女巻き込むような地域力イベント、そんなと



ころで3番の取組、今日もまた色々出ていましたけど。

●鎌田委員

付け足しで。さっき夢とか目標とかありましたけれども、気仙沼とか大船渡に行って、これからの町づくりということで、どんな町になっていきたいかということで大船渡の子どもたちに絵を書いてもらったのですよ。極端な話親が考えたと思いますが、政令指定都市になるというようなことがあって、1つにはどういう町になりたいかという夢があってそれに進んでいって、例えば震災後政令指定都市になるぞと、それに向かってどうしなければならぬのかというのがもちろんありますし、気仙沼なんかもそれがないからみんな「あーでもないこーでもない」と言う感じで防潮堤も出来上がってしまうし、岩手が本当にこういう風になれるためにこういうふうにしていかなければならぬというのがないと思えずらい。皆でこういう市になりたいというのを早く打ち出さないといけないというのは、これにも行きつくのかなって感じました。

●山田座長

ありがとうございます。どうでしょうか、岩手をこういう風にしていきたいとか、最初の目標とか理念に関わってくるかと思いますが。

●事務局

こういう社会を目指すべきだとかこういう未来を目指すべきだと色々書き方ができるかと思いますが。問題は昔考えた数値目標をどう考えるか。そうすると多分数値目標置きましようという話にはならないと思いますので、理念の下でキャッチフレーズ的なものを作文していくつかのパターンを整理してみることはできると思いますし、今日の議論を聞いていますと単に経済的豊かさではない色々な人間としての喜びや実感実現できるものを含めた豊かさの尺度があって、それらが一緒になって岩手に豊かさに繋がっていくのかなと。

そのようなことを理念として、そのために留意すべきこととして3つくらいの柱があって、更に具体的な展開例としてこういう施策をやったと。行政はこういう取組、民間はこういう取組というような具体的な取組例を提案するような形をしておりますが、そういったまさにたたき台のたたき台を事務局でも整理いたしまして、座長と相談したうえで次回までの間にはまたご提案して議論いただきたいと思います。

●山田座長

最初から1つのではなくて、いくつかのパターンから最終的には事務局さんの方で形を作っていただくということでよろしいでしょうか。各論についての具体的な所はかなり出てきているのではないかと個人的には拝見しておりました。少し戻って岩手の豊かさについてこれからどうするかを、皆様お帰りになった後でもう一度考えていただくということ

でよろしいでしょうか。

●菅原委員

(2) のセーフティネットの充実を図るの②の繋がりを強くするんですが、岩手県内としての繋がりを強くする、あるいは自分の住んでいる地域の繋がりを強くするという意味が強いと思うのですが、その他にも外部、県外との繋がりを強くしていくのも、災害が起きた時などに大事なのでこの辺も何か入れてほしいです。東大の似田貝先生の東大被災地支援ネットさんに私のNPOがIT事業所を繋いだ例ですが。東京のITソフト開発する事業所で、その社長さんが被災地支援への思いがあり、NPOを社内のお金で作ったんです。たまたまそのNPO法人とIT関連の事業所さんから秋葉原の夏祭りのイベントの時に被災地グッズの販売と寄付を募ってみないかとの申し入れがあつて、それを似田貝先生に繋いだら、似田貝先生は復興グッズ販売に力を入れているので、復興グッズ関連の団体さんに声を掛けて、秋葉原で盛大にイベントをやればばんばん売れたらしいです。先生から都内でこれから納涼祭りとかやるので納涼祭り委員会の実行委員に積極的に声を掛けていくというのがメールで来ていてすごく良かったなと思った。内々に繋がっていくのも大切だけれども、若い方は都会に繋がるの好きだと思うから、農業でも漁業でも都会と繋がれる何か作り、岩手にいても繋がっていけるのが大切だと思う。そういう考えでこの繋がりを考えていただけるとありがたいです。

●山田座長

ありがとうございます。素案についてはこういうことも盛り込んでほしいというお話も皆様方から随時願います。骨子案等につきましては改めて御覧になっていただいて事務局さんの方から御連絡していただくということで。その他になりますが皆様から御質問などはございませんでしょうか。